

# 一般的なインターンシップと 何が違うのか？

## 双方向型 事前・事後教育システム

- 事前に実習内容を予習できるので、学習効果が高まります。
- 学生にとって希望の実習先であること、受け入れ先も学生のことを事前に把握しているために、最初から実習密度が濃くなります。
- 実習後に学生から実習充実度を評価されることや、人材確保の含みもあり、受け入れ先の指導は真剣です。

**実習効果  
が高まります！**

## 学生主導型

- 就職活動と同時に、学生は真剣に実習先を選び、受け入れ先もより相応しい人材を確保するべく学生の潜在能力を知ろうとします。
- 学生は受け入れ先へ自己アピールやプロフィールを伝え、受け入れ先は学生へ実習内容、心構え、プロフィールを伝えます。つまり、双方向で実習前から情報交換するので、本気度が違います。

**本気度  
が違います！**

学生主導型の体験実習は  
**ココが違う！**

**親身度  
が違います！**

## 短期大学部としての組織的な取り組み

- 実習先はOBの勤務する企業、団体などが中心のため、後輩に対する親身度や面倒見の良さが違います。
- 実習の中で、さまざまな貴重なアドバイスを受れたり、体験談を聞くことで、キャリアデザインの形成に結びついていきます。

**体験内容  
が高まります！**

## 情報共有、評価、工夫・改善の仕組み

- 生産農家や生物生産関連産業の施設、酒類・味噌・醤油の製造会社、造園、環境NGO、給食施設など、4学科の学科内容に相応しい実習先が揃っています。
- 教育の理念は「実学主義」です。体験の中で学び取るものが多い分野だけに、プロに直接指導を受ける事が出来るたいへん貴重なプログラムです。

